

# 今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○4月13日～

先週は期限ギリギリで米国とイランの停戦が成立し、2週間の停戦期間の間に交渉するようですが前途多難のように見えます。12日には米国とイランの交渉がまとまらず、バンス副大統領が米国に帰国したというニュースが流れました。

停戦後もホルムズ海峡は自由に行き来することはできず、イランの許可を得ることができなければ通行できません。

停戦になったことで、絶望的な状況は回避できたように見えますがホルムズ海峡が元の状態に戻ることは現時点では考えにくいです。

すでに東南アジアなどは日常生活に影響が出ているようですが、日本も6月頃から影響が出てくるのではという話があります。

建設資材や塗料なども大幅値上げとなり、品薄になるだけでなく、価格高騰が今までにないレベルになりそうです。製造業の多くが減産することになれば景気後退は避けられません。

停戦のニュースで先週は株が大きく上昇する一方で、原油価格は1バレル=100ドルは割り込みましたが高値圏での推移が続いています。

そして、為替相場は大きな動きはありませんが、各国が今年後半には物価高(インフレ)対策から利上げに動き出す可能性があります。

これまでは日本の利上げに注目が集まっていますが、日本以外の国も次々と利上げに動き始めると日本が利上げしても円安を止めることが難しくなってきます。

日本は1%以下の金利なので、他の国が利上げに動くと海外から見ると低金利ということになり、円は売られやすくなります。

原油高も円安要因なので、ますます円安が進みやすくなります。

介入警戒感からドル/円の上値を試す動きは限定されていますが、162円を超えるような動きになると165円あたりまで急騰するリスクもあり、160円超では乱高下のリスクに備えたいです。

16日は、FRB議長に指名されているケビン・ウォーシュ氏の公聴会もあります。

また、日銀の植田・総裁が利上げに対してどう考えているかも注目が集まっています。

赤沢・経済産業相が円高につながる日銀の政策について「一つの選択肢としてあり得ると思う」と話しています。日本政府としても物価高(インフレ)対策として利上げや金融引き締めなどの政策を容認するしかなくなってきているのではないのでしょうか。

まずは、週明けから市場がどう動くかに注目したいです。

株価が大きく下落するとリスク回避的な動きが再び強まる可能性があります。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

## 今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

### <ドル/円>

ドル/円は160円あたりでは介入への警戒感が強まるため上値が重くなっています。先週も変わらず158-160円程度のレンジの中で方向感がない動きが続いています。上値は159.4円を超えると160円の抵抗が意識されます。160円を超えても160.5円あたりにも抵抗があり、高値買いはリスクが高そうです。下値は158.6円を割り込むと157.8円あたりまで下がる可能性があります。157.5円を割り込むと155円あたりまで下落するリスクが出てくるので注意がいらいます。

### <気になるクロス円>

クロス円はリスクオンの流れで上昇しているペアが多く、この流れが続くかがポイントになりそうです。ユーロは今年1月の高値186円台後半まで値を伸ばしてきました。ここを超えてくると中長期的にも上昇が継続する可能性が出てきます。欧州は年内に利上げに動く可能性が出てきているので、利上げの可能性が高まるとユーロ高に動きやすくなります。ユーロ/ドルが上昇していくかどうかどうかも見ておきたいです。ただし、株が急落するような動きが出るとクロス円もリスク回避から下落する可能性があるので注意がいらいます。

\*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇/円というような通貨ペアのことです。

### <今週のファンダメンタル？>

日本では植田・日銀総裁発言、2月機械受注などがあります。米国では3月中古住宅販売件数、3月卸売物価指数、4月ニューヨーク連銀製造業景気指数、4月NAHB住宅市場指数、バージェブック(米地区連銀経済報告)、2月対米証券投資、4月フィラデルフィア連銀製造業景気指数、前週分新規失業保険申請件数、3月鉱工業生産などが発表されます。欧州ではユーロ圏でラガルド・ECB総裁発言、2月鉱工業生産、3月消費者物価指数などがあります。ほかには、中国で3月貿易収支、1-3月期GDP、英国で2月GDPの発表などがあります。